第3回 和光市都市計画マスタープラン検討市民委員会 議事概要

開催日時	令和3年7月19日（月）15:00～16:40
開催場所	和光市議事堂3階 第2委員会室
出席者	高木恒一委員長、関口泰典副委員長、田中芳樹委員、峯友彦委員、富澤隆司委員、岡崎治委員、田中明委員、宮利昌委員（順不同）
欠席者	高橋良多委員、川崎真知委員、渡部壮大委員
事務局	和光市 漆原建設部長 都市整備課：小賀坂課長、高橋、松本、神山 玉野総合コンサルタント株式会社：横木、木村、大島
次第	1 開会 2 議事 （1）全体構想（案）について （2）地域別構想（案）について 3 閉会
傍聴者	1人

1 開会

2 議事

事務局

- ・会議は市民参加条例第12条第4項の規定により公開とする。
- ・会議録は同条第6項の規定により公表する。なお、会議録は発言者の名称と、その発言の要点を記載する要点記録の形式とする。

(1) 全体構想（案）について

<資料1に基づき事務局より説明>

高木委員長

- ・全体構想（案）の修正案についてご意見、ご質問等があればいただきたい。

富澤委員

- ・7ページの一般住宅地区の「また、東京都練馬区における都営地下鉄大江戸線の延伸計画を踏まえ、新駅である（仮称）大泉町駅に近接する南一丁目では、新駅設置の効果を十分に生かしたまちづくりを検討します」について、もう少しご説明いただきたい。

事務局

- ・「大江戸線の新駅設置の効果」という内容については、南一丁目地域の今後のまちづくりにおける拠点となるような要素として記載している。大江戸線の延伸は、正式決定しているわけではないが、20年後のまちづくりアイデアとして入れている状況である。

富澤委員

- ・地下鉄12号線については、練馬区、新座市、清瀬市、所沢市等による延伸のための促進協議会があるが、いまだルートさえ決まっていない状況である。和光市が一緒になって延伸促進をかけているのならば私は記述してもいいと思うが、和光市に直接影響してくるのだろうか。延伸が未確定な状況の中で、果たして都市計画マスタープランの中で反映していいのか疑問に思うが、いかがか。

高木委員長

- ・将来性の不確定な部分について都市計画マスタープランにどこまで書き込むのかというご指摘である。計画と構想の差というか、できたときに慌てるというよりは、何か予想を立てて対応を考えておいたほうが良いという一般論はあるとはいえ、かといって、ルートも必ずしも決まっていない、それから直接影響がどこまであるのかも不十分なものを記載していいのかという問題提起だと思う。この点は委員の方々からもご意見を含めていただきたい。

関口副委員長

- ・私は、越後山土地区画整理組合の事業推進に関わっている。練馬区のらんとう坂付近に既に大江戸線新駅の建設予定地がある。光が丘から大泉までの練馬区内の3つの駅の位置は具体的に明記されていて、駅前広場用地の確保が進んでいる場所もある。ただ、先ほど富澤委員がおっしゃったように、実際に協議会のほうで進むか進まないかという部分で具体的な話が見えていないような状況でもある。
- ・都市計画マスタープランにおいて、今後の将来性を考えるときに、和光市の南部地域が一番地下鉄大江戸線に近い位置にあたるので、新しい発展があるのではないかと思う。

高木委員長

- ・地下鉄の延伸の場合、1つは首都圏の整備計画の問題で、いつ具体化するのかという問題がある。それと交通利便性の開発としても、地域開発の問題を都市計画マスタープランに入れるのかどうか、例えば乱開発であるとか、土地の値段の変動であるとか、そうした問題と絡みながらこれは出てくることがあるかと思う。
- ・事務局で、大江戸線延伸に関する情報について、もう少し追加情報はあるか。

事務局

- ・大江戸線延伸に関して、具体的な活動として和光市が入っている状況ではないので、特別に新たな情報を入手している状況ではない。
- ・南地域については、将来的に練馬区内に大江戸線の新しい駅の可能性があるということを見野に入れて土地利用を考えたい、というご相談もあつたりする。南地域で今後まちづくりをするにあたって、どのように進めていくか、といった考え方を都市計画マスタープランの方針として、何かしら議論、または考えていきたいと思っている状況である。

富澤委員

- ・新駅の場所が正式には決定していない状況の中で、都市計画マスタープランに記載してよいものでしょうか。

事務局

- ・事務局としても、誤解を招くようなことはあつてはならないと思っている。この点については、表現または考え方についてももう一度議論して見直したいと思う。貴重なご意見として反映させていきたい。

高木委員長

- ・前提としては、延伸計画はあるけれども、確定的な情報がない。ただし、一方で整備されたときに慌てて対応するよりは、10年、20年のスパンで整備されても大丈夫な方向性を提示する、ということになるかと思う。そうした方向で、緩やかに記載を追加するということを検討いただくということではいかがか。
- ・大江戸線延伸に係る記載の見直し、誤字脱字の確認、第5次総合振興計画との整合性等も含めて、全体構想（案）について再度事務局でご検討いただきたい。

(2) 地域別構想（案）について

<資料2に基づき事務局より説明>

高木委員長

- ・地区割が4つの地域に変わったということと、各地域の課題を提示し、特に人口の増減ということがポイントになっているということか。

事務局

- ・地域区分については、いろいろとご意見をいただきたい。現行の都市計画マスタープランの地区区分にもよいところはあると思うが、今後、まちづくりを進めていくにあたって事務局として新たな地域区分を提案している。さまざまな考え方があるかと思うが、和光駅の北と南を分けずに、「中央」という形で一体で考えるべきではないかという提案。また「北」地域では和光北インターチェンジ周辺で少し活発なまちづくりの動きがあるので、そこでの提案。「南」地域については、市民アンケートで住み続けたい意向が少し低いという結果があるので、皆さんが住み続けたいと思っていただけるようなまちづくりの考え方はないか、地域をよりよくするための考え方として何かアイデアがないかということを考えていきたいと思う。

高木委員長

- ・まずは全体を通してご質問、ご意見等があればいただきたい。

岡崎委員

- ・これから和光市は人口が増えていくということになると、小学校、中学校を新たに作る予定はあるのか。予定している内容があれば教えていただきたい。

事務局

- ・人口増加に伴い、新しい学校ができるか否かについては、都市整備課で把握しているものではないので明確なお答えはできない。ご質問の内容については、小学校の建て替え等も含めて公共施設マネジメント計画の検討をしている資産戦略課と共有する。なお、公共施設マネジメント計画は、都市計画マスタープランの考え方を反映した形で今年度策定予定と伺っている。

岡崎委員

- ・人口が増えると当然ごみも増える。和光市はご存じのとおりごみ処理施設の老朽化が前から指摘されていて、今の東地区のごみもほとんどを燃やしている状態だと伺っている。今後、施設を増やす計画はあるのか。

事務局

- ・ごみ処理施設については、老朽化しているため建て替えが必要という状況であり、和光市及び朝霞市が連携した形でのごみ広域処理施設の計画が進められている。今回は、都市計画マスタープランとしてのまちづくりの方針としてお示ししているので、いただいたご意見については、所管課と情報を共有しながら進めていきたい。
- ・ごみ広域処理施設については、令和4年度に都市計画決定を予定している。今回の都市計画マスタープランにおけるまちづくりの考え方を反映した形で、進めていくべきと考えている。

高木委員長

- ・教育施設の配置問題はここには出ていないかと思うが、ごみ広域処理施設に関しては、北地域で課題の6番に挙げられているところである。これは北地域内で再整備をすることを前提に、具体的な施設の運用の部分、特に広域の部分と、それを支える都市計画の部分とをどう切り分けるか

ということがあるという理解でよいか。全体として、もちろん老朽化は問題として認識をしていて建て替えの方向だと。それを所管ごとに切り分けながら今作業をしている。その一環としてこのマスタープランにも位置づけがあるということかと思う。

田中（芳）委員

- ・現行の都市計画マスタープランについて、線路を中心とした地区の分け方に疑問を持っていた。今回提案された4つの区域については、非常にうまく分けたなという気がする。
- ・1つは、政策的に一致するという点。和光市には東武東上線と東京メトロの線路が通っている。機能軸とか発展軸という表現があるが、機能軸、発展軸が一致するところというのは都市計画が政策的にやりやすいと思う。特にこの場所は和光市の顔となる場所なので、政策的にやりやすいのかなと思う。
- ・次に、北地域については、国道254号線バイパスの軸があることから、この軸に対してどういう政策をしていくかということと、それから一方では緑地もあることから、それらをどのようにリンクさせていくかということも含めて非常によくまとめられたのではないかと思う。

高木委員長

- ・地域区分が現行都市計画マスタープランの区分から変更になるというのは、かなり大きな政策変更、計画の変更だと思う。小学校区をベースにするというのは、コミュニティの考え方が大きく出ているのかと思う。その部分でうまくまとまり、なおかつ今ご指摘のとおり機能軸も組み込むということでの提案だと思われる。
- ・この地域区分についても、ご意見、コメント等があればいただきたい。計画の水準の問題と、おそらく生活の水準の問題、異なる視点が当然あり得るかと思うが、いかがか。

峯委員

- ・福祉分野では、日常生活圏域というのは概ね30分以内で通える市内の北、中央、南の3つの圏域が掲げられている。また、小学校区を基本とした地域コミュニティの構築ということで、地区社協の設立を目指しているところである。
- ・東地区の考え方が福祉分野の計画などにはなかったもので、この考え方は古くからあったのかということと、いろいろな分けがあることによって、市民の方がどうお考えで、混乱していないかについて確認したい。

事務局

- ・東地区については、全く同じではないが、現行都市計画マスタープランのE地区がベースになっている。
- ・今回、地域区分の案をお示しするにあたって、いくつか議論があった。例えば、下新倉5丁目、白子4丁目と記載されている南側の黒い線が練馬川口線であるが、練馬川口線より南側のエリアを北地域と東地域のどちらにするかという議論があり、どちらも選択肢としてあり得るだろうと考えている。このエリアについては、小学校区という地域コミュニティだけではなく、都市計画上の考え方、都市機能を考慮した考え方もあるだろうという意見もあった。
- ・約20年前に当初の都市計画マスタープランを策定したときに、練馬川口線という都市機能と、和光市だけでなく成増方面の板橋区とか練馬区という都内に向かった形での利便性を考えた地域特性として、1つの考え方としてコミュニティがあるだろうという考え方から、Eという地区があった。
- ・今回の提案では、小学校区という考え方と都市機能というものを掛け合わせた形で、よりよい形ができないだろうかという考えでご提示している。

高木委員長

- ・4つに区分した各地域について、具体的なコメント、ご質問等があればいただきたい。

富澤委員

- ・東地域の現状、課題に、川越街道の宿場町であった白子宿の面影を残しているということ、湧水地や水辺も本地域の特徴となっている、ということ相当強調しているが、現地では白子宿の面影がだんだん無くなろうとしているので、もう少しトーンダウンして書いたほうがいいのかと思う。文化財として建物を保存し、白子宿の面影を残しておきたいと思うが、失われていく現状を見ると本当に残念に思う。

高木委員長

- ・論点は2つあって、白子宿の建築物を文化財として残すかどうかという問題と、それを都市計画マスタープランにどう位置づけるのかということ。あわせて、歴史景観保全というふうには、ここで抽象的に表現しているところを都市計画上どう実現していくのかということが問われているのかと思うが、事務局でお考えのことはあるか。

事務局

- ・実際、湧水地や緑が、周辺の開発が進むことで確実に減少しているということは、都市整備課の範囲ではあるが把握している。文化財という生涯学習課の所管の案件については、すべて把握できているわけではないが、危機的な状況ということも問題として大きい。
- ・しかし、都市計画上の目標を低く設定してよいのか、ということについては委員の皆様からさまざまなご意見をいただければと思う。都市計画マスタープランとして、中央地域、北地域、南地域、東地域それぞれにさまざまな特徴があるというところで、今回この4つの地域を提案させていただいた。
- ・白子宿の面影が無くなることを前提として、まちづくりの目標をせっていすることがよいのか、それとも10年後の状況の変化に応じて見直すことを前提として、白子宿の面影を生かすという目標はどうだろうか、という観点も踏まえてご意見をいただければと思う。現存するものが無くなる前提で目標を設定するのがよいのかということ、そうではないのではないかと事務局では思っている。

高木委員長

- ・それは、市として、例えば都市プランニングというのか、シビックプライド、こちらあたりは基本構想に言葉があるが、そうしたものの象徴としてどこまでテコ入れをするのかということで、政策全体に関わる問題もあろうかと思う。市の方針、都市計画マスタープランを超えて市として白子宿をどのように位置づけるのかというのは何かあるか。

事務局

- ・今回、都市計画マスタープランの地域別構想案を作成する中で、東地域の位置付けとして、今は景観を重要視して記載しているが、その辺の記載内容が変わっていくと思う。
- ・市の内部で白子宿についてどういう方向性でいるのか、今事務局ではその知識を持ち合わせていないので、状況を確認をして、ある程度方向性を提示できればと考える。この場ではどう記載するのか、事務局も委員の皆様も方向性を出せないと思うので、調べる時間をいただきたい。

高木委員長

- ・それでは、事務局には状況を調べていただくとして、ここは市民の皆様の検討の場なので、どういうふうにしたいのか、残したほうがいいのか、もうというのか、私のような外部の人間には見

えないところであるが、思いを残していく方向がいいのか、というご意見を自由に出していただければと思う。

富澤委員

- ・文化財ということを考えるときに、私個人としては、歴史的な建造物というのは残すべきだと思う。市としてどうしたら残せるか、それは個人では限界なので市で考えていただきたい。
- ・白子宿の建造物（古民家）や湧き水等について、長年、市として何も手を出していない状況である。例えば保存するために補助金を出すこともしていないし、保存するための調査もしていない。そういう積極性が市として欠けているのではないかと私は思う。このままでは他人任せで、結局所有者が残せば残せるが、処分してしまったら無くなってしまう。市として何か保存策を仕掛けないといけないのではと思う。
- ・例えば、近隣の志木市では「富士塚」が国の有形民俗文化財として指定されている。しかし、志木市より古いといわれている和光市の「富士塚」が文化財として指定できないでいる。貴重な有形民俗文化財として早急に県及び国の指定として恒久的に残していただきたい。このままではいづれ無くなってしまう。歴史的な古民家も、湧き水も、何か手を打たないと、何かやらないと、他人任せでは残っていかないと思う。

高木委員長

- ・ぜひ残すべきというご意見である。
- ・ほかにご意見は。

田中（芳）委員

- ・東地域の緑の軸は、環境的にも市の防災軸としてかなりの役割を果たしているのではないかと。この軸がいかに重要な都市の部分になっているかということ考えたときに、これが本当に生きてくる空間だと思う。そういう意味でもこの4つの地域に分けたことはよいと思う。

高木委員長

- ・この地域の戦略性というか、特質性としては、1つは地形の問題があり、それから全体の中での特質ということがある。このことは、都市計画マスタープランにどう入れ込むかというのは少し話が大きくなるかもしれないが、一方で戦略的に使えるところでもあるかと思う。そうした点も、おそらく今ご意見をいただいたところだと思うので、歴史的な文化財の重要性と、それから地形的なことも含めた特質をどう組み合わせていくか、おそらくそれは都市計画マスタープランができることのようにも思う。つまり、文化財や防災の基盤となる地域分けの根拠となり、その地域では何ができるのかというのは市の総合振興計画や方針のもとに、何ができるかをお考えいただくことになろうかと思う。特にこの東地域については、少し大きな抽象的な宿題にはなるが、ぜひ全体方針も含めてご検討、情報収集をお願いできればと思う。
- ・そのほかのご意見はいかがか。あるいは事務局から、この点に関して意見があればよいということはあるか。

事務局

- ・人口推移が、和光市全体で増加傾向にある中で、南地域は唯一下降傾向にある。市役所等さまざまな公共施設が多いために住める場所が少ないという特性もあるが、南地域のまちづくりとして、また人が生活する上で、もう一つ特徴的なものがないと、住みたい、住み続けたいと思っていただけないのではないかと考える。南地域について、少し考え方を掘り下げてさまざまなご意見をいただけないだろうか。

高木委員長

- ・いかがか。なかなか難しい話かなど。

関口副委員長

- ・南地域は、根底にあるのが基地返還であり、今後の土地の使い方や、どのように転換、活用していくのかという、中央、北、東の地域には全く関係のない特異的な地域である。
- ・人が減るとするのは、人の住む家を建てることができないというのがあるが、今後面的な整備をどう進めるのか、今後夢を持ってもらう「ふるさと和光」を作るために、都市計画マスタープランには、その辺をうまく含めて今後の展開を書き込んでいただけないかと思う。

高木委員長

- ・個別の状況を考えると難しいところがあるが、今、東京圏全体を見たときに、郊外というのは人口の取り合い方がかなり激しい状況になっている。先ほど私が危惧を申し上げた乱開発や地価の問題というのは、結局条件のいいところであれば郊外でも人が増えていて、都心は全般的に増えており、和光市のような条件のいいところでも、駅との近接性がかなり違ってくるとい状況である。中央地域の人口予測は伸びるが、他の地域の人口の伸び率は全市の伸び率を下回っているということは、つまり和光市の今後の人口の増加を吸収するのは中央地域であるという予測になるのかと思う。
- ・その人口は、東京圏全体から来るのか、あるいは和光市内で取り合いをすることになるのか1つの危惧のポイントになるように思う。例えば、南地域で多少不便けれども緑が多いとか敷地が広いというような条件があれば、それは選択される可能性があるかと思うが、市全体と比較したときにどうなのか。とりわけ和光市駅周辺というのは、おそらくまだ開発の余地があって、デベロッパーが資金を投入しようと思えば、大規模マンションを作ることだってできてしまうと思う。そうした中で人口をどう維持していくのかということと、現状、条件の差がある中でどう考えるのかということだと思う。
- ・おそらく東にしても南にしても、利便性ではない何か特徴となると、それは緑なのか、広さなのか、静かさなのか、あるいは歴史ということかもしれないが、そうしたものを住宅都市というコンセプトの中で、利便性のある住宅と、緑豊かな住宅というのは何か差別化があってもいいのではないか。例えば歴史文化としての白子宿をどう使えるのかであるとか、南地域の軍用地で立入りにくい用地は、緑が確保されているというのが実はかなり皮肉な状況としてあって、環境面でどう評価するかは別にして、少なくとも広い土地が近くにあるということはどう考えるかということである。少し具体的な地名や状況を踏まえて、何かご提案をいただければと思うが、いかがか。
- ・人口減少を止めるというのはなかなか決め手がなく、日本の人口が減少状態になって、その中で人口減少を止めるなり増やすなりということはどこから人を取ってこないといけない。1つはそこを目標にしないという大胆な発想の転換もあるが、今のところの提案では、そこには踏み込んでいないので、ではどうするのか、ということがやはり問われるのではないかと思う。

富澤委員

- ・和光市は魅力のある市と言われている。住みたい街ランキングからしても上位に位置付けられている。第一に都心までのアクセスとして鉄道の利便性の高さが挙げられる。
- ・土地区画整理事業を積極的に推進すれば、人口が増加し地域経済への多大な波及効果があるといわれている。和光市の土地区画整理事業が遅れているということは地域の発展に多大な影響を与えていると思う。市施行及び組合施行等による土地区画整理事業を積極的に進めることではないか。

高木委員長

- ・土地区画整理事業については、長期未着手というものが課題として常に上がってくるという状況だが、結局使える手法を1つ1つ地道に積み上げていくという話。土地区画整理事業は時間がかかる。それから、私権の制限がどうしてもかかってくるということがなかなかしんどいところ

だが、それこそ市民参加ということをずっと積み上げてきた和光市の腕の見せどころという部分も実はあるのかと思う。

- ・土地区画整理事業の問題は、私もいろいろな立場の狭間に入って様々な意見を聞いている。今のように進めるべきという意見と、そんなことをやって何なんだという意見の両方があり、しかもそれは1960年代、70年代から延々とあって今に至っている。その中で土地区画整理事業に取り組んでいく姿勢というのは重要だと思う。一方で、それが停滞しているということも事実だと思う。そういった状況の中で、将来構想ですごく大きなことは出てこないのかもしれないが、行政と市民の皆さんとの間で、ここら辺が納得できるということができてくるとよい。おそらく市民参加というのはそういうことなのかと思う。
- ・どうすれば人が減らないのか、という点について何かご意見があれば。
- ・1つは地道な土地区画整理事業の推進というご意見が出ている。逆に言うと、今やっていることに批判があるわけではなく、これでは駄目だという話はなかったかと思うが。

富澤委員

- ・都市計画の分野の専門講師の話で、「都市計画の母というのは土地区画整理事業」だと聞いた。土地区画整理事業というのは、道路、公園、広場、緑地、下水からすべて生み出していく。生み出す「母」であるとのこと。その意味でいろんな公共施設の整備をするには土地区画整理事業は重要だといわれた。土地区画整理事業施行済の地区をみれば、道路も公園も下水等公共施設も完備されて、安全性、利便性、環境面でも本当に良い事業であると思う。それを一括で生み出している、作り出しているのは土地区画整理事業なので、これからもこの手法を積極的に活用すべきだと思っている。

高木委員長

- ・土地区画整理事業には、その分大変なこともあると思う。合意形成という問題である。

田中（芳）委員

- ・和光市はすごく恵まれた市だと思う。やり方によっては「小さな大都市」を目指せると思う。
- ・私は、さいたま市でいろいろな計画を出しているが、さいたま市は「大きな小都市」である。ヨーロッパに行くと人口30万人であっても、世界の都市と競争できる都市がいくらでもある。それはなぜできるかという、モビリティが非常にいいからで、モビリティがいいというのが非常に重要と考えている。ヨーロッパだけでないが、まちも時代とともに価値が上がっていく。そうすると「自分のまちに帰る」という考え方になる。日本の場合は、「家に帰る」という考え方で、「まちに帰る」という考え方は、昔はあったが今はなくなってしまった。そういう意味では一体的なプロジェクトで仕掛けることによって、「まちに帰る」という発想がおそらく出てくるだろうと思う。もう1つ、都市計画、都市政策を作った段階でまちがスクラップになるのではなくて、長い間歴史を経て価値が出てくるというような仕掛けがこの交通体系を見たときに、「小さな大都市」が強いのだろうと私は思う。

高木委員長

- ・交通体系について、先ほど田中委員からご指摘のあったコミュニティとしての小学校区と機能軸の組み合わせが大変評価できるというのは、おそらくそこに関わってくるかと思う。私はどちらかということコミュニティから都市を見る立場だが、田中委員は、おそらく機能の側からご覧になっていると思うが、その立場からご覧になって、機能軸とコミュニティの組み合わせ方の最適解として、今回の事務局案はいいところに来ているのではないかと評価されているのだろうか。

田中（芳）委員

- ・基本的なものは非常によく整理されていると思う。都市軸に対してどのように区域分けしていくかだが、これは産業軸であり、発展軸でもあるわけである。生活基盤、生活軸、生活基盤と軸と

はまた違うと思うが、それをどうやって組み合わせしていくかということはモビリティのやり方で決まると思う。

高木委員長

- ・今、課題として提示されたのは、1つ目が土地区画整理事業をどうするか、もう1つはモビリティの問題かと思う。特に外環道側道を活用した新たなモビリティの構想はアクセシビリティの効果も大きく出ていると思うが、南と東の地域にもどのように配慮していくかということが課題であるかと思う。
- ・あえて田中委員のお話を私の分野方面に戻すと、これまで和光市の都市政策として、住宅都市としてコミュニティや市民参加を多く積み重ねてきた中に、今回、産業やモビリティ等が積み重なるといことが面白いところだと思う。和光市には本当にまだ可能性として持っているものがある。1つは市民協働で進めてきた魅力で、テクニカルな部分と、市民の方々のこれまで培ってきたことをどうやって組み合わせられるのかということが今問われているのだと思う。土地区画整理事業の推進というご意見は、まさにそういうことだと思う。
- ・具体的な何かということが、私も含めてなかなか出せていない状況であるが、ぜひ方向性としてその点をよくお考えいただければと思う。田中委員、何か補足していただけるか。

田中（芳）委員

- ・和光市は、産業がどんどん発展する場所でもないと思うし、生活しやすいというのを市民の皆さんが言っているわけだから、「生活しやすさ」を生かし、モビリティを大事にしながら、中心地区をいかに整然とした発展の仕方をさせるか、更に、そこからモビリティをどうやって作るかということが大事だと思う。和光市は都市なので。

高木委員長

- ・和光市内のモビリティの問題と、市外との連携ネットワークの問題の両方を含んでいるということか。

田中（芳）委員

- ・和光市は、市外からの大動脈が来ているので、それをいかにリンクしていくかということが大事だと思う。
- ・新しいモビリティが入ってくるという可能性があるわけで、さらに可能性は広がると思う。

高木委員長

- ・方向性として大変重要なお指摘をいただいたかと思う。
- ・そのほかいかがか。

富澤委員

- ・環境面で、再生可能エネルギー、低炭素化、ヒートアイランド等、いろいろな問題が今叫ばれているが、それらを都市計画マスタープランに何か反映させるような記述が必要かと思う。

高木委員長

- ・SDGs への取り組みもかなり積極的に行われているかと思うが、環境は1つの軸である。いろいろな軸があるが、SDGs に取り組むというのは総合性の問題が問われていると思う。今、環境についてのご意見だが、環境と開発ということについて、事務局で何かお考えのことはあるか。

事務局

- ・環境については、都市計画マスタープランでも盛り込まなければならないと思っている。しかし、環境に関しては、昨年度環境課で策定した第3次環境基本計画の中で、和光市として取り組むべきところを明記している。まちづくり、または都市計画マスタープランとして関連するところが多々あるので、連携を図りながら進めていくことになると思う。
- ・地球温暖化は少しテーマが大きすぎるので、地球温暖化に対してどのようにまちづくりの中で貢献していくかということについて、具体的記載は難しいかもしれないが、例えば再生可能エネルギーに配慮したまちづくりといった形で、都市計画マスタープランへの方針づけができればと思う。

関口副委員長

- ・第5次総合振興計画には、各施策に合わせてSDGsの対応が出ており、都市計画マスタープランは「即す」という形になっているので、対応しているかと認識している。

高木委員長

- ・SDGsの話は大変大きな問題で、和光市の取り組みもかなり大きなところがあるので、次回の委員会でお示しいただければと思う。SDGsはゴールも非常に多くて、関係性を作るのがなかなかわかりにくいので、ぜひ資料として提示していただければと思う。

事務局

- ・承知した。

高木委員長

- ・最後に、事務局から連絡等はあるか。

事務局

- ・次回の第4回委員会は令和3年11月頃を予定している。
- ・令和3年9月11日、12日に第2回地域別懇談会を予定している。

3 閉会

以上